

令和7年度 東京都内湾水生生物調査 2月鳥類調査 速報

●実施状況

令和8年2月2日に鳥類調査を実施した。調査当日は大潮で、干潮が11:31(90cm)、満潮は05:55(186cm)であった(気象庁のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

	葛西人工渚(東なぎさ)	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
調査時刻	12:30-13:55	10:40-11:36	8:30-10:02
調査時間(分)	85	56	92
天候	晴	晴	晴
気温(°C)	12.2	10.8	6.6
風向	南南西	-	北
風速(m/sec)	1.9	静穏	2.0
備考	調査開始時はほぼ干潮時で、干潟が広く干出していた。	最干潮時刻でも干潟の干出は少なかった。	お台場海浜公園で噴水設置に向けた作業が行われていた。

●主な出現種等

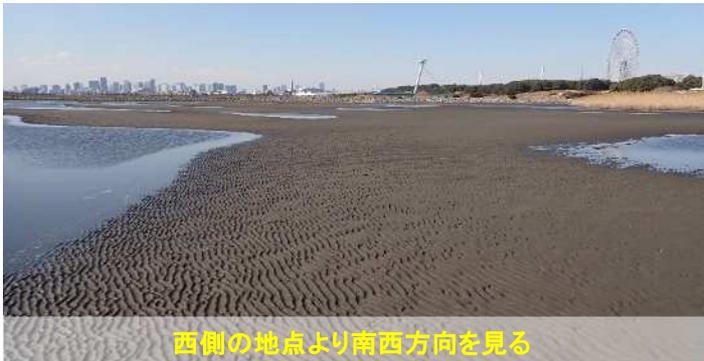
	葛西人工渚(東なぎさ) ※沖合含む	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
数が多かった 鳥類上位3種	スズガモ(3230羽) カワウ(1619羽) カンムリカイツブリ(1029羽)	ユリカモメ(97羽) コガモ(93羽) オオバン(25羽)	カワウ(2492羽) スズガモ(400羽) トビ(129羽)
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スズガモ、ミヤコドリ、シロチドリ、ダイシャクシギ、ズグロカモメ、クロツラヘラサギ等、重要種として14種を確認。</li> <li>・シギ・チドリ類は5種を確認。イソシギは護岸付近で見られ、他の種は干潟で採餌または休息していた。</li> <li>・ズグロカモメ3羽が浅瀬を飛びながら採餌。</li> <li>・ツクシガモ1羽が干潟で見られた。本調査で初記録。</li> <li>・東なぎさの護岸でクロツラヘラサギ4羽が休息。</li> <li>・沖合いの海上でスズガモとカンムリカイツブリ、カワウの群れが休息。調査範囲内の海上には、鳥がほとんど見られなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンムリカイツブリ、イカルチドリ、イソシギ、ミサゴ、ハイタカ等、重要種として8種を確認。</li> <li>・カモ類はオカヨシガモ、ヒドリガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロの6種が見られた。</li> <li>・護岸でイカルチドリ、イソシギが採餌。アオサギが構造物上で休息。</li> <li>・干潟は狭く、ユリカモメとカワウが休息。</li> <li>・猛禽類はミサゴ、ハイタカ、トビの3種を確認。ハイタカは2羽が上空を飛翔。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホシハジロ、スズガモ、ウミアイサ、オオバン、カイツブリ、ハジロカイツブリ等、重要種として8種を確認。</li> <li>・第六台場と鳥の島でカワウが営巣中で、巣立った幼鳥も多く見られた。第六台場で689巣、鳥の島で198巣を確認。</li> <li>・カモ類は5種に加え、ヒドリガモとアメリカヒドリ雑種が1羽確認された。工事箇所を避けてお台場海浜公園沿岸部の水面で休息。</li> <li>・カイツブリ、ハジロカイツブリが海上で休息。</li> <li>・トビ129羽を確認。</li> </ul>



<葛西人工渚(東なぎさ)>

○調査地点の状況

調査開始時はほぼ干潮時で、干潟が広く干出していた。



○出現種(シギ・チドリ類)

ミヤコドリ、シロチドリ、ダイシャクシギ、ハマシギ、イソシギの5種が確認された。環境省レッドリストでシロチドリは絶滅危惧Ⅱ類(VU)、ハマシギは準絶滅危惧(NT)に、東京都レッドデータブックでシロチドリとダイシャクシギは絶滅危惧ⅠA類(CR)、ミヤコドリとハマシギ、イソシギは絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。



○出現種(クロツラヘラサギ)

4羽のクロツラヘラサギが東なぎさの消波ブロックで休息していた。本種は種の保存法で国内希少野生動植物種、環境省レッドリストで絶滅危惧ⅠB類(EN)、東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠA類(CR)に指定されている。



○出現種(猛禽類)

ミサゴとトビが確認された。ミサゴは枯れたヨシを拾い上げて飛ぶ行動が観察され、トビは干潟に降りて休息していた。



○干潟利用状況

カモメ類の群れが休息し、その中に3羽のズグロカモメが確認された。また、本調査で初記録となるツクシガモ1羽が、波打ち際で休息するのが確認された。どちらの種も、環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。



○海面の状況

調査範囲内を利用する種は少なく、スズガモとカンムリカイツブリ、カワウの大きな群れが沖合いに見られた。沖合いの個体数はスズガモ 3230羽、カンムリカイツブリ 1029羽、カワウ 1610羽であった。スズガモとカンムリカイツブリは東京都レッドデータブックで留意種に指定されている。



### <森ヶ崎の鼻>

#### ○調査地点の状況

最干潮時刻だが、干潟はわずかに干出したのみ。



#### ○出現種(カモ類)

オカヨシガモ、ヒドリガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロの 6 種が確認された。カモ類は主に調査地北東側の京浜島付近と南西側の護岸、南側の海老取川付近に集まり、採餌、休息する様子が見られた。ホシハジロは東京都レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。



オカヨシガモ



ヒドリガモ



カルガモ



オナガガモ



コガモ

#### ○出現種(シギ・チドリ類)

護岸で採餌するイカルチドリとイソシギが確認された。イカルチドリは東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されている。



イカルチドリ



イソシギ

#### ○出現種(猛禽類)

ミサゴ、ハイタカ、トビの 3 種が確認された。このうちミサゴとハイタカは環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)、東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠB類(EN)に、トビは東京都レッドデータブックで準絶滅危惧(NT)に指定されている。



ミサゴ



トビ



ハイタカ

#### ○干潟利用状況

干潟は狭かったが、カワウとユリカモメが休息していた。



<お台場海浜公園>

○調査地点の状況

第六台場・鳥の島でカワウが多数営巣していた。



○出現種(カワウ)

カワウが抱卵・<sup>いくすう</sup>育雛中で、第六台場で 689 巣、鳥の島で 198 巣、合計 887 巣が確認された。どちらの営巣地でもヒナの鳴き声がよく聞かれ、樹上や護岸で休息する幼鳥が多く見られた。また巣材を運ぶ成鳥も少数見られた。



○出現種(カモ類)

ヒドリガモ、カルガモ、ホシハジロ、スズガモ、ウミアイサの 5 種と、ヒドリガモとアメリカヒドリの雑種が確認された。カモ類はすべてお台場海浜公園の岸付近で見られた。スズガモがもっとも多く、400 羽が休息していた。ウミアイサは東京都レッドデータブックで情報不足 (DD) に指定されている。



○出現種(カイツブリ類)

カイツブリとハジロカイツブリが確認された。これら2種は東京都レッドデータブックで準絶滅危惧 (NT) に指定されている。



○出現種(トビ)

上空を多数巡回していたほか、林に降りて休息するなど合計 129 羽が確認された。特に多く見られたのは第六台場で、カワウの死体に集まり採餌する様子も見られた。



<その他>

○ウミネコの繁殖

砂町運河でウミネコは確認されなかった。京葉線の高架にカワウ 84 羽がとまっていた。



砂町運河



ウミネコが営巣する構造物

<トピックス>

- ツクシガモの初記録 -

葛西人工渚でツクシガモ 1 羽が確認された。本種は本州南西部や有明海などに冬鳥として渡来し、内湾や干潟に生息する。関東地方で見られることは少なく、本調査でも初めて記録された。今回の調査では逆光気味の条件であったが、赤色を帯びた嘴や栗色の胸の帯など、本種の特徴的な姿を確認することができた。この個体は干潟で休息した後、満ち潮とともに飛翔して移動する様子も観察された。写真のツクシガモはすべて同一個体。



干潟で休息するツクシガモ (矢印)



セグロカモメ (左) に追われて飛び立つ



浅瀬に降りる